

### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・平成20年から南牧村森林組合の原木市場が閉鎖され、近隣の原木市場は下仁田町森林組合石淵貯木センター1箇所となり、木材運搬路として本林道の必要性が高まった。
- ・平成16年にはBP(下仁田側)付近に県内第2位の処理能力を持った製材工場が稼働するなど、下仁田町には製材工場が集積し、県内産素材の15%を消費しており、下仁田町へ直接通じる本林道の期待は高まっている。
- ・平成19年災により被災を受け、孤立集落となった上底瀬集落等から、災害時の迂回路として強い要望がある。
- ・平成20年度から京都議定書の第一約束期間が始まり、森林吸収源対策の森林整備が緊急な課題である。
- ・平成23年度から県産材自給量(率)倍増を目指す「県森林林業基本計画」が実施され、林道の役割は高まっている。



### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

- ・本林道は、既設林道間を結び木材搬出の効率化、集約化施策の推進を図ための基幹となる林道である。
- ・利用区域内では5カ年間で240haの森林整備が実施された。
- ・山村地域の生活道として利用されており、災害時には緊急の迂回路としても期待される。
- ・延長は約21.5kmあり、一般車両の通行可能な林道として整備する必要がある。
- ・今回、事業見直しを行い、C区間についてトンネルを取りやめ、幅員の見直し等事業費の縮減をした。



#### 費用便益分析

		計画・前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		林野公共事業における事前評価マニュアル		林野公共事業における事前評価マニュアル			
基準年		平成15年度		平成21年度			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	5,676,855	99.4%	7,874,031	99.2%		
	維持管理費	32,758	0.6%	64,407	0.8%		
費用合計(C)		5,709,613		7,938,438			
便益 (千円)	木材生産便益	4,065,248	39.6%	5,893,992	61.2%		木材生産等の経費縮減や木材の利用・生産増進
	森林整備経費縮減便	3,469,263	33.8%	411,227	4.3%		森林整備作業や森林管理の経費縮減
	森林の公益的機能便	1,906,753	18.6%	1,502,994	15.6%		森林の公益的機能の維持増進
	森林の総合利用山村振興便益	836,873	8.0%	1,822,527	18.9%		森林アクセス短縮や林業の従事者の就労機会の確保
便益合計(B)		10,278,137		9,630,740			
費用対効果分析(B/C)		1.80		1.21			